



広報きたもと

10月号は“こどもの居場所”特集 大学生がつくる駄菓子屋など計9か所を紹介



広報きたもとは、毎月市内全世帯へ3万1,000部配布する北本市の広報紙です。10月号では、こども家庭庁で令和5年12月に指針が決定するなど、国としても支援体制を強化している「こどもの居場所」をテーマとした特集「ここにいろよ。まってるよ。」を掲載しました。大学生がつくる駄菓子屋やこども食堂、雑木林を活用した遊び場など北本独自のこどもの居場所9か所を取材。また、北本市のこどもの居場所づくりを支援する「きたもとBASE」事務局の対談や、虐待の当事者活動を行うブローハン聡さんのインタビューを行い、こどもの居場所づくりの意義や価値を多角的に捉え、北本に住まう子どもたち、そして子育て中の保護者を応援する内容となっています。

特集概要

紙面は北本市HP

からご覧になれます▶



【概要】

- タイトル「ここにいろよ。まってるよ。」 ●ページ数 14ページ（10月号は全36ページ）
- 取材先 こどもの居場所全9か所、こどもの居場所へ参加するこども・親子当事者、こどもの居場所ネットワーク「きたもとBASE」、虐待の当事者活動を行うブローハン聡さん

【見どころ】

- ① **個性豊かなこどもの居場所の紹介**→現役大学生がつくる駄菓子屋や、歴史あるお寺が行うフードパントリー、保護者たちが持ち寄りで始めた平日昼間の学校外のこどもの居場所など、個性豊かな現場を取材。担い手の想いや、子どもたちが居心地よく過ごせる工夫を紹介します。
- ② **担い手の率直な想い**→「最初はこども食堂に興味がなかった」という人の意識が変化したエピソードや、こども食堂のお手伝いを通じて友だち作りをする中学生のインタビューも見どころです。
- ③ **こどもの居場所づくりを仕掛ける”裏方”**→個々の居場所を裏方から支援する北本市社会福祉協議会職員にも話を聞き、地域でこどもの居場所やこどもの支援の輪がどのように広がっていくのかがわかる内容となっています



取材したこどもの居場所

みんなの다가しや ビーム(10月号特集内①-

②、④頁掲載)

日時 10月末までの毎週金曜日

13:00ごろ～18:00 ごろ

場所 北本団地シェアキッチン「中庭」

(栄7-1-26-102)

団地出身の大学生が開催する駄菓子屋。お金を持っていない子もお手伝いに応じて買い物できるポイントがもらえる等、駄菓子を買っても買わなくても過ごせる工夫が施されています。

ひなとま食堂(⑤頁)

日時 第1～3金曜日 15:00 ～ 18:00

場所 ハイワールド!!(深井6-87)

ショッピングモールのイベントスペースを活用したこども食堂。Wi-fiなどの設備も充実しており、学校帰りのこどもたち等の姿が多く見られます。受付をするとおもちゃの10円玉がもらえ、お菓子コーナーで買い物できます。



フードパントリーことぶき・寺子屋ことぶき(⑥頁)

日時 パントリー:毎月第2火曜日

寺子屋:毎週水曜日15:00～19:00

場所 寿命院(深井4-55)

お寺が地域の民生委員さんと協力し、必要とする世帯に食材等を提供しています。寺子屋では学びや体験の格差をなくすため、こどもたちの学習支援・季節のイベントなどを行っています。

なかにわスウクルウ(⑥頁)

日時 毎月第2・4木曜日

場所 北本団地シェアキッチン「中庭」

「こどもたちに平日昼間に学校以外に過ごす居場所を」との思いで保護者等が始めた居場所です。

もりとこプレーパーク(⑦頁)

日時 日曜日(月1回)10:00～14:00

次回開催予定:10月13日

場所 市民緑地4号(北本宿158)

雑木林でこどもたちが自由に遊びを発見する居場所です。こどもたちは遊びながら失敗や危険を学び、大人たちは温かく見守ることで自発性を育みます。

みやうち子ども食堂(⑧頁)

日時 毎週木曜日

場所 個人宅(お問合せください)

個人宅で行うこども食堂。こどもだけでなく、地域の独居の人なども受け入れています。

すまいる食堂(⑧頁)

日時 毎月第2日曜日

場所 コミュニティセンター(本町8-156-3)

お料理サークル「すまいる北本」とNPO法人上尾明るい社会づくり運動によるこども食堂です。

SARAちゃん食堂(⑨-⑩頁)

日時 毎月第2金曜日

場所 総合福祉センター(高尾1-180)

更生保護女性会の皆さんが行うこども食堂です。食事の他に野菜や食品、文房具等の物資の配布も行います。

こどもマーケット(⑪-⑫頁)

日時 偶数月に開催する団地マーケット内

場所 北本団地商店街

6月から隔月開催する「団地マーケット」内で開催。こどもたちがマジックショーやマンガ、スライムづくりなどやりたいことで出店しています。



きたもとBASE

きたもとBASEとは、北本市内のこどもの居場所のネットワークです。こども食堂に限らず学習支援の場や雑木林での遊び場など多様なこどもの居場所活動が参加しています。事務局を北本市社会福祉協議会が担い、このネットワークに参加する団体には助成金や物資の提供などの支援を行っています。

「きたもとBASE」の事業として、「きたもと、つながるフードパントリー」や、「制服リユースきたもとくるくる」などを行っており、ネットワークに参加するこどもの居場所の担い手同志がつながりあい、顔の見える関係づくりにも寄与しています。

★制服リユースきたもとくるくる とは

着なくなった制服などを北本市社会福祉協議会で募集し、必要とする世帯へお譲りする事業(対象要件あり)。きたもとBASE会議にて「制服を必要とする世帯がいる」との声を受け、開始したもの。今年は11月8日・9日に開催予定(10月号⑩頁掲載)。

北本市社会福祉協議会

従来、北本市社会福祉協議会では、高齢者等や障がい者等を対象とした事業を中心に活動してきました。しかし、コロナ禍をきっかけに、子育て家庭からの生活困窮に関する相談が数多く寄せられたことから、こどもの支援に力を入れる必要性を感じ、「こども応援プロジェクト」を開始。こどもの居場所づくりの担い手養成講座や、こどもの居場所のネットワークづくり(のちのきたもと



BASE)、こども応援未来基金の立ち上げなどを行いました。

基金には、令和3年～令和6年で約500万円の寄付が寄せられ、市内のこどもの居場所づくりの支援等に活用されています。その他、地元企業や地域住民からの野菜や物品等の寄贈を幅広く受け入れ、市内の各こどもの居場所へ提供するほか、各こどもの居場所に足を運び、活動者のサポートや悩み相談にも対応。さらに、こどもの居場所づくりに限らず市内で活動する個人・団体・企業とつながり、活動したい人と活動できる場所のマッチング等を行う他、地域活動全般の支援を幅広く行っています。

担当者 コメント



現在、社会的にこどもを持つことへの責任、負担などが取りざたされることが多く、こども本人や子育てする保護者は多大なプレッシャーのもとにあります。本特集で紹介した活動が、そうしたこども本人や保護者を応援し、それぞれが安心できる居場所を見つける助けとなれば幸いです。

★各居場所への取材のお問合せもお待ちしています！居場所の担い手の皆さんとお繋ぎしますのでお気軽にお問合せください！